

Ⅱ 調査結果の概要

1 配偶者等からの暴力に関する認知度

(1) 暴力と認識される行為

15 項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた。この調査における「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれている。

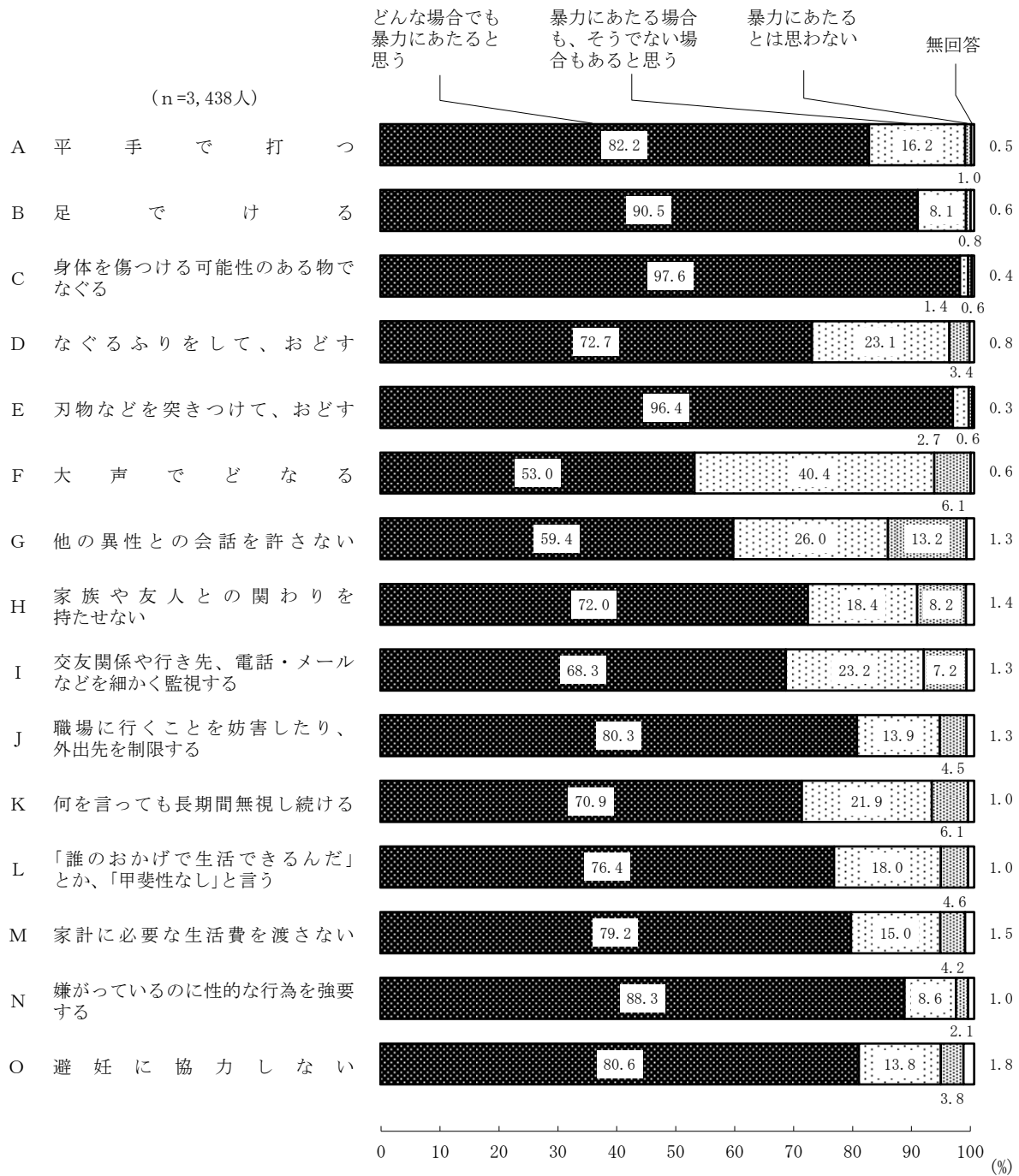
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“足でける” (90.5%)、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる” (97.6%)、“刃物などを突きつけて、おどす” (96.4%) で、9割以上の人が『暴力にあたる』と認識している。

また、“平手で打つ” (82.2%)、“職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する” (80.3%)、“嫌がっているのに性的な行為を強要する” (88.3%)、“避妊に協力しない” (80.6%) は8割の人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「暴力にあたるとは思わない」は、“他の異性との会話を許さない” (13.2%) のみが1割を超えている。(図 1-1-1)

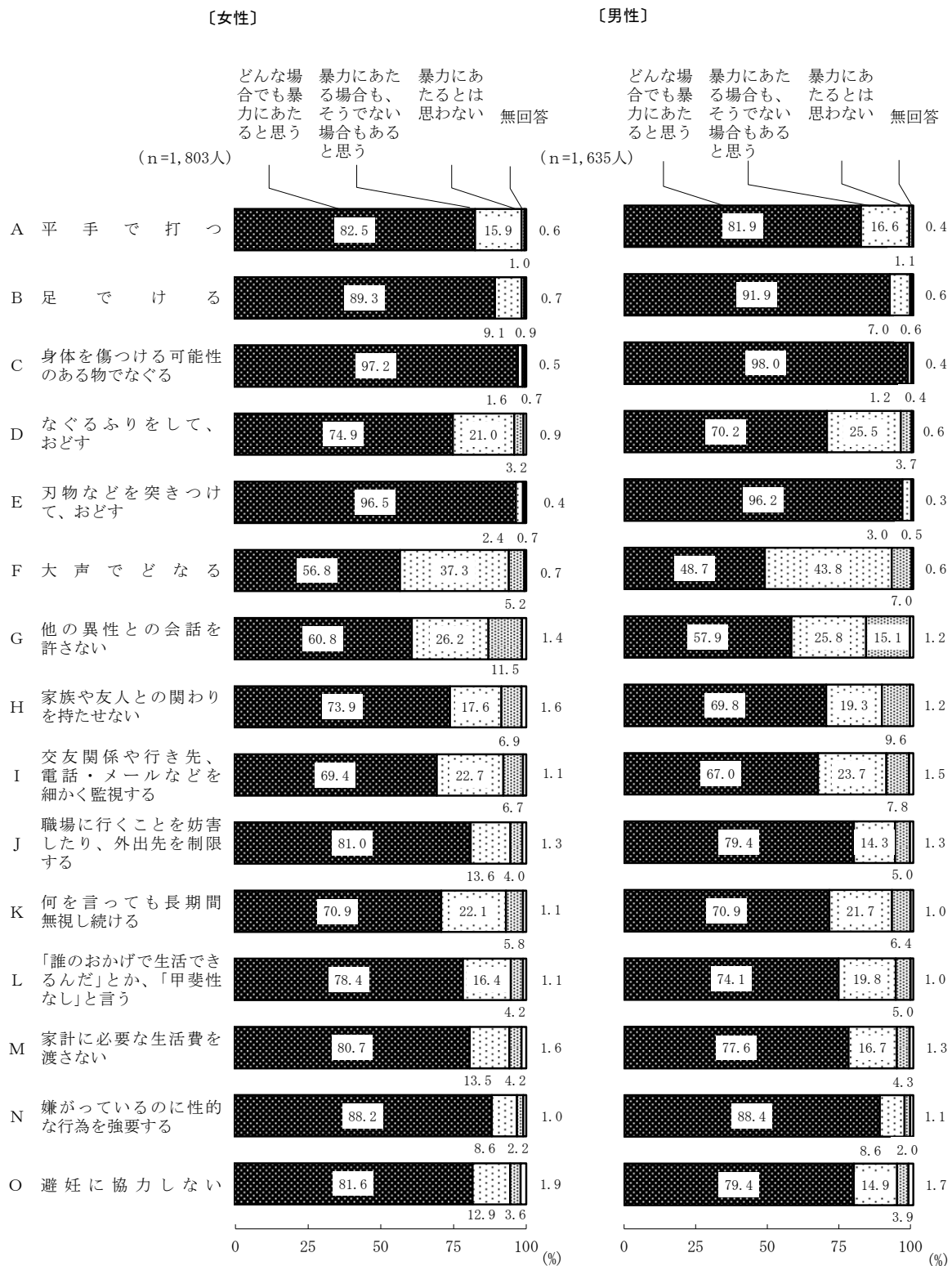
問1 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
A～Oのそれぞれについて、「1」～「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。
なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。
(○はそれぞれ1つずつ)

図 1-1-1 夫婦間で暴力と認識される行為



性別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に大きな差はみられないが、“大声でどなる”や“なぐるふりをしておどす”などの相手を威圧する行為については、女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が多くなる傾向がみられる。(図1-1-2)

図1-1-2 夫婦間で暴力と認識される行為(性別)



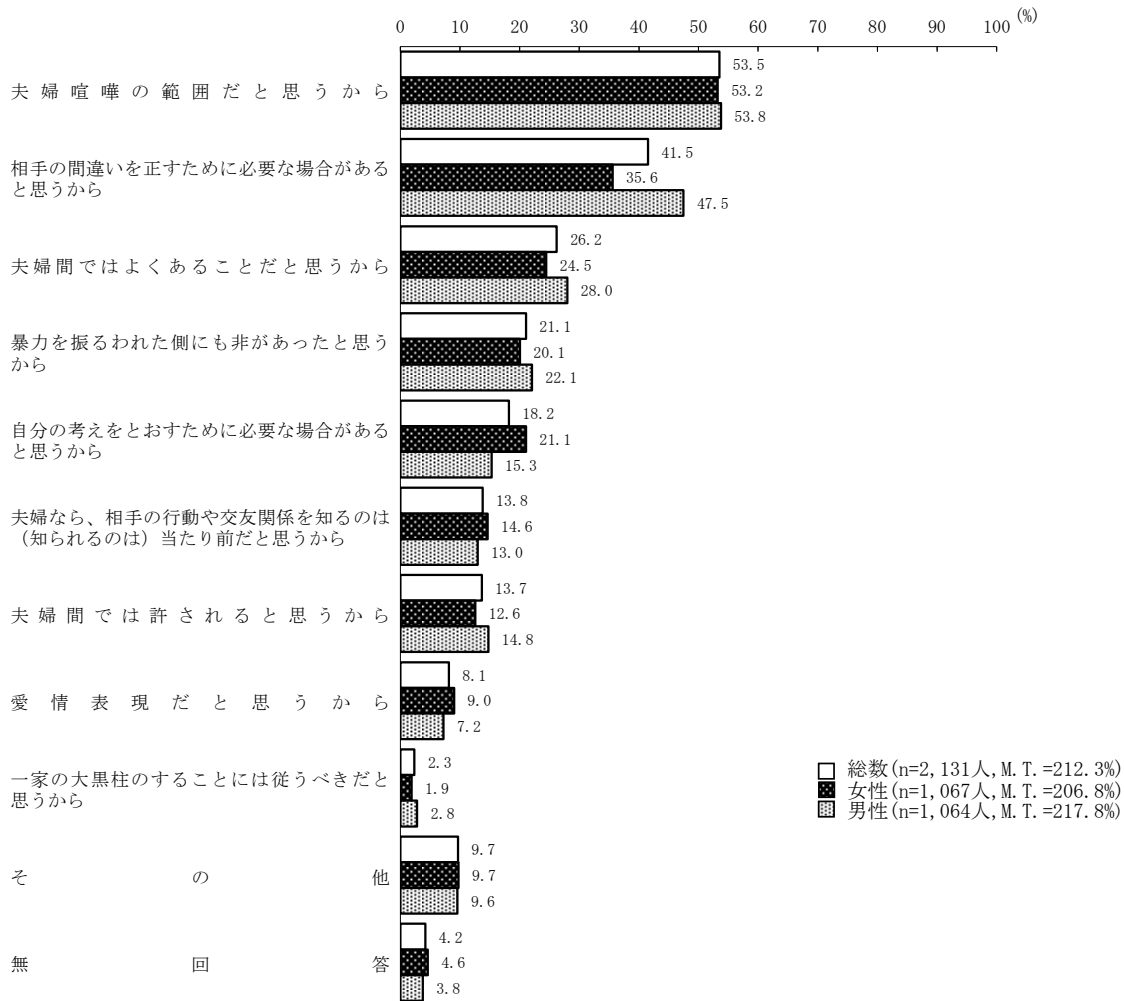
(2) 暴力にあたらない場合があると思う理由

15項目のうち1つでも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と答えた人(2,131人)に、理由を聞いたところ、「夫婦喧嘩の範囲だと思うから」が53.5%と最も多く、次いで「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」(41.5%)、「夫婦間ではよくあることだと思うから」(26.2%)、「暴力を振るわれた側にも非があったと思うから」(21.1%)などとなっている。

性別に見ると、男女ともに「夫婦喧嘩の範囲だと思うから」(女性53.2%、男性53.8%)が最も多くなっている。「自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから」は男性より女性で、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」、「夫婦間ではよくあることだと思うから」は女性より男性で、それぞれ多くなっている。(図1-2-1)

問2 そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

図1-2-1 暴力にあたらない場合があると思う理由(複数回答)



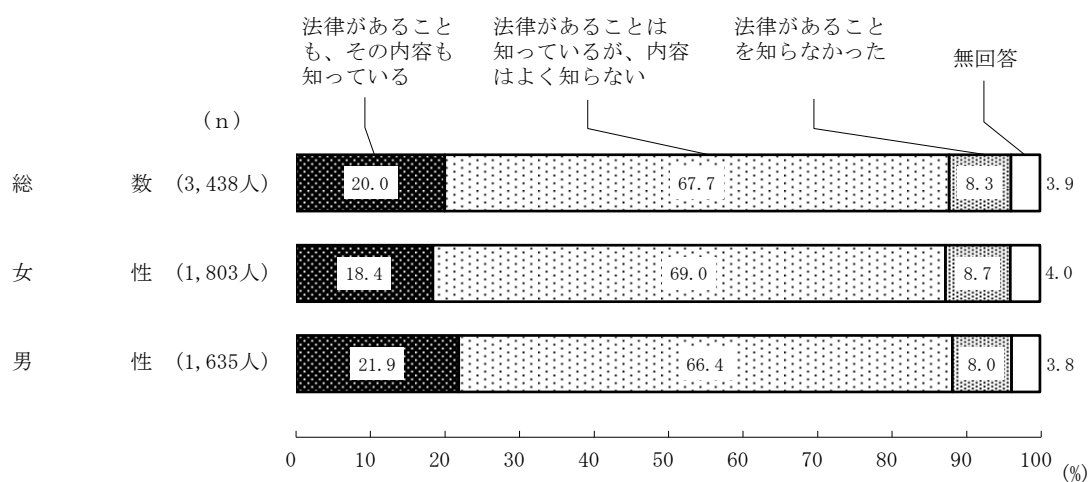
(3) DV防止法の認知度

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（いわゆる「DV防止法」）について知っているか聞いたところ、「法律があることも、その内容も知っている」という人は20.0%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」という人は67.7%で、合わせると9割近くになっている。

(図 1-3-1)

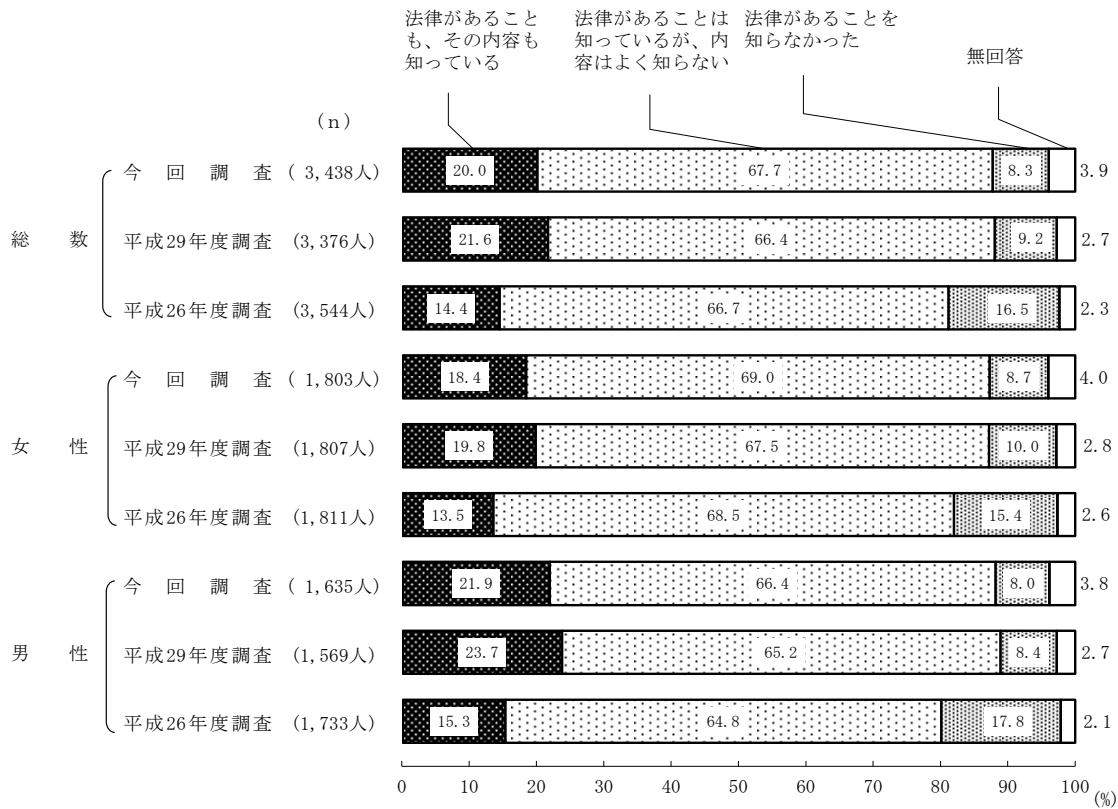
問3 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」（いわゆる「DV防止法」）を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)
 (この法律は、配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))に関する通報、相談、保護、自立支援などの体制を整備することにより、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。)

図 1-3-1 DV防止法の認知度



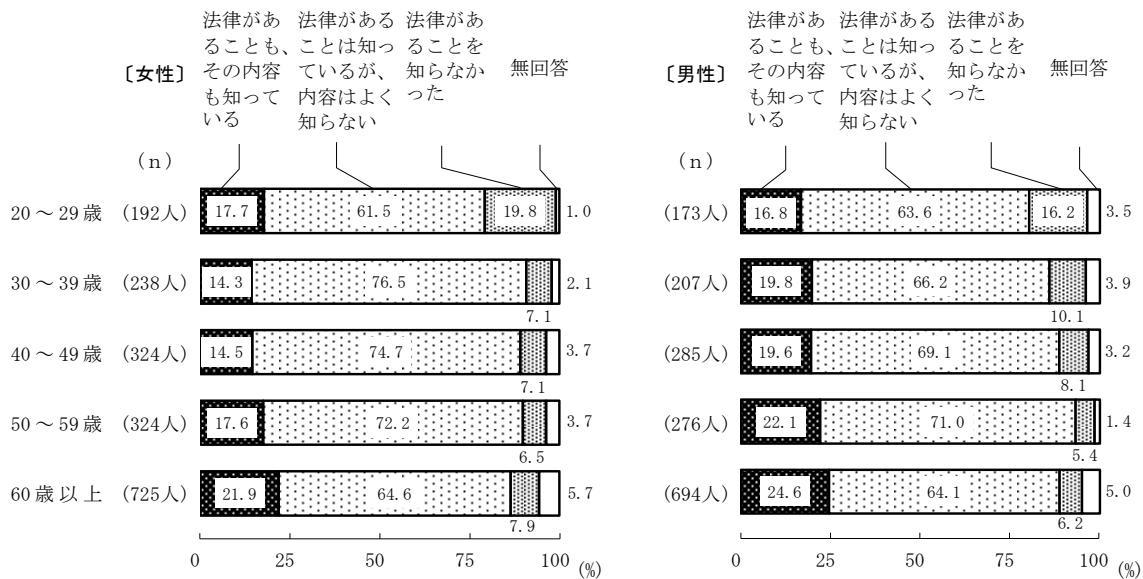
時系列比較でみると、認知度に大きな変化はみられない。(図 1-3-2)

図 1-3-2 DV防止法の認知度 一時系列比較



性・年齢階級別にみると、「法律があることを知らなかった」は、男女とも20～29歳で最も多くなっている。(図 1-3-3)

図 1-3-3 DV防止法の認知度 (性・年齢階級別)

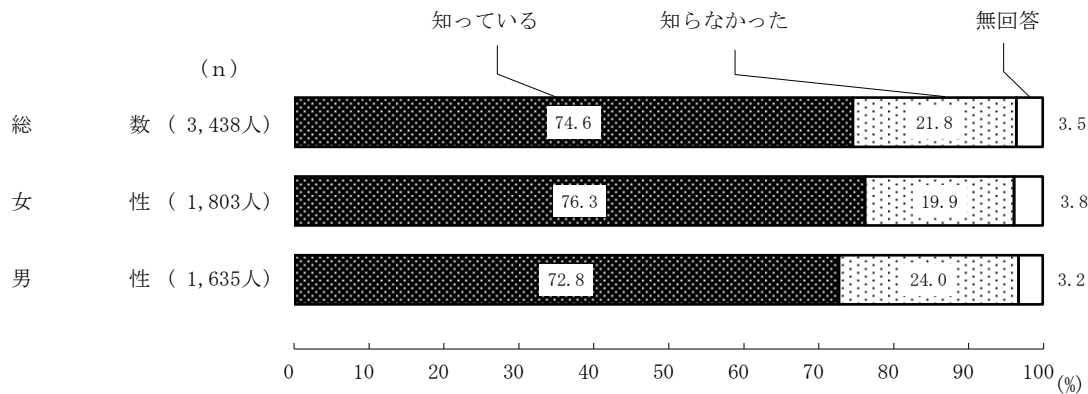


(4) 相談窓口の周知度

配偶者等からの暴力について相談できる窓口を「知っている」は74.6%で、「知らなかった」は21.8%となっている。(図1-4-1)

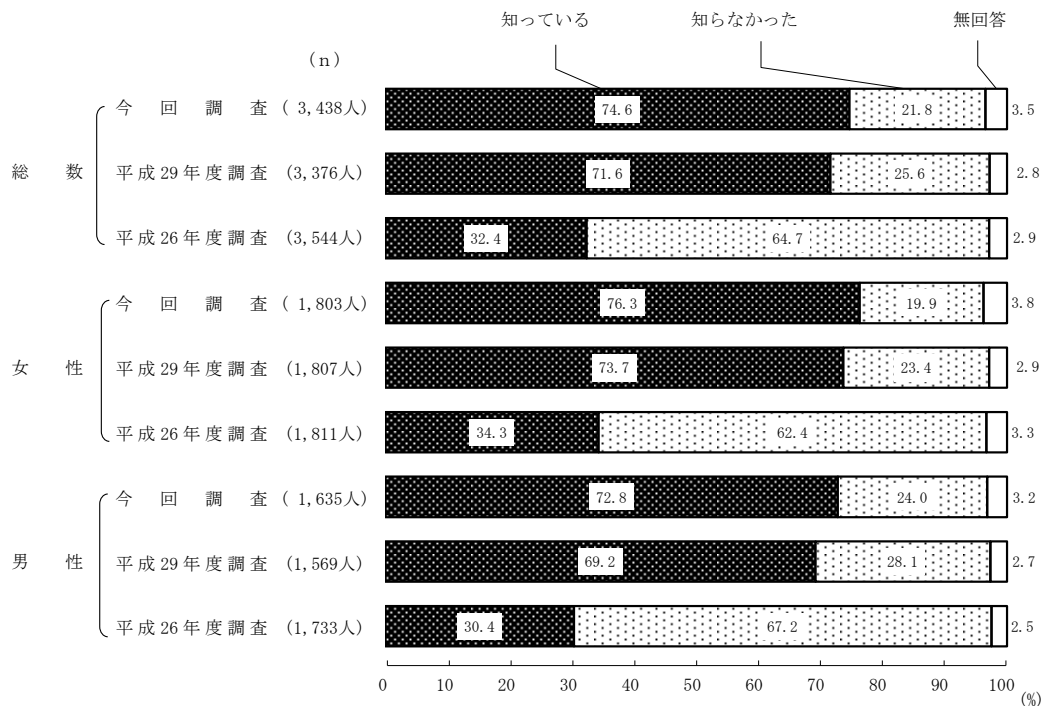
問4 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口があることを知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)
 (窓口とは、配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所等)や男女共同参画センター、警察、法務局・地方法務局、民間の専門機関など。)

図1-4-1 相談窓口の周知度



時系列比較でみると、平成29年度調査より周知度がやや高くなっている。(図1-4-2)

図1-4-2 相談窓口の周知度 一時系列比較



性・年齢階級別にみると、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を「知っている」と答えた人は、女性の50～59歳で80.9%と最も多く、女性ではすべての年代で7割を超えているのに対して、男性では20～29歳で61.8%、30～39歳で63.3%となっている。(図1-4-3)

図1-4-3 相談窓口の周知度(性・年齢階級別)

